

震災による原発事故が住民の健康管理に及ぼした影響について 福島県保健衛生協会 今野香織

震災による原発事故が住民の健康管理に及ぼした影響について
～南相馬市の現況～

- 5 ○ 今野香織、青木紋、岩城道政、鈴木京子、及川秀誠、東原世紀

公益財団法人福島県保健衛生協会

- 10 【はじめに】東日本大震災により引き起こされた原発事故を受け、原町区・小高区・鹿島区の3区から成る南相馬市では区ごとに避難指示が異なった。主に小高区は20km圏内であったため警戒区域となり避難し、原町区
15 は30km圏内のため緊急時避難準備区域及び計画的避難区域となって自主避難した。鹿島区は30km以上圏であったため避難指示がなかった。避難指示が見直された現在も、小高区は避難指示解除準備区域とされたため
20 に、昼間の立ち入りはできるが、宿泊するこ

とが出来ず避難生活を続けている。これらの事実が、特定健診受診状況や検査結果にどのような影響を与えているかを調査したので報告する。

25 【対象と方法】平成22年度から平成25年度の4年間に当協会健康診査を受けた延べ17,964名の南相馬市住民を対象とし、原町区、小高区、鹿島区の3区に分け、原発事故前後における肥満、血圧、脂質、肝機能、運動習慣等について、その実施状況を比較検討した。

30 【結果と考察】健康診査の受診率は原発事故後の平成23年は市全体として約1/4にまで減少したが、平成25年度に至っては原町区と鹿島区は震災以前の状態にまで回復傾向を示した。しかし、小高区の受診率は事故前の平成22年度と比較して68.8%に低下したままにある。

40 検討した各項目について比較すると、受診者の平均年齢は市全体で高くなる傾向がみら

れた。BMI や腹囲は小高区の男性で増加がみられたが、女性は3区ともに変化がなかった。血圧は男女共に低下傾向にあった。HDL-C は3区間に違いを認めなかったが、LDL-C は震災翌年の小高区で上昇していた。

AST ・ ALT ・ γ GT は小高区の男性が上昇していた。運動習慣を見てみると、1日1時間以上の歩行程度の運動を行う人が原町区や鹿島区で震災後、一時減少したが、徐々に事故前の状態に戻りつつある。また、睡眠による十分な休養がとれていないと感じている人が3区共に増加しており、特に小高区では約4割の人が睡眠不足を感じていた。

【まとめ】今回、南相馬市では原発事故後、避難指示が異なる3つの区について健診受診状況を比較検討した結果、震災後に減少した受診者数は、小高区を除き回復傾向を示していた。小高区は依然とし避難生活を続けており受診率は減少したままである。検査結果では避難生活による運動不足や環境の変化等に

よる食生活の変化が何らかの影響を与えた可能性を示唆していた。また、南相馬市全体が睡眠による休養が不十分であると感じている人が多く、これは継続的なストレスに起因していると考えられた。今後、南相馬市民の健康管理継続のために、当協会が果たすべき役割を十分に考えながら、避難生活を送る人たちの健康を守るために努力したい。